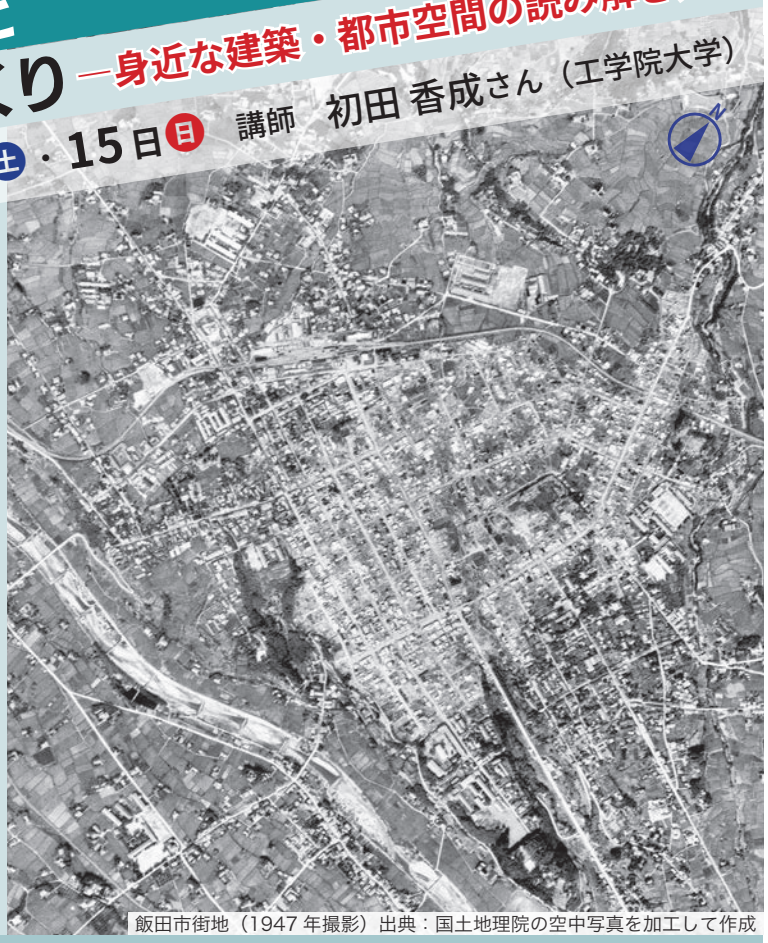
飯田市 歴研ニュース
News Letter No.144
The Iida City Institute of Historical Research
2026年10月1日発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL　0265-53-4670
FAX　0265-21-1173
E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp

飯田アカデミア2026 第111講座

日本の復興計画の歩みと大火後の飯田のまちづくり
―身近な建築・都市空間の読み解き方―

2026年11月14日(土)・15日(日)　講師　初田 香成さん（工学院大学）


飯田市街地（1947年撮影）出典：国土地理院の空中写真を加工して作成

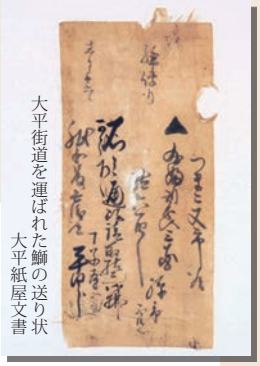
飯田をはじめ日本の都市は、戦争や災害からの復興を重ねながら、今の姿へと形づくられてきました。身近なまちの風景に隠された歴史を、戦後の都市・建築の専門家から学びます。

◆会　場　飯田市役所本庁舎（オンライン併用）
◆資料代　500円（2日間共通・高校生以下無料）
◆日　時
11月14日(土)　14：00～17：15
【第1講】　都市のみかた・しらべ方
【第2講】　震災復興と戦災復興
災害で発達した日本の都市計画
11月15日(日)　9：00～12：15
【第3講】　都市大火と都市不燃化運動
大火でできた日本の町並み
【第4講】　飯田大火の復興計画とその後のまちづくり
◆申込期間　10月1日(木)～11月10日(火)

◎申込方法：QRコード、Webフォーム、または歴史研究所まで電話・FAX・メールでお申し込みください。
◎申込内容：氏名（ふりがな）、電話番号、参加方法（会場／オンライン）、参加される日をお願いします。
※オンライン受講の方はWebフォームからお申し込みいただくとキャッシュレス決済をご利用いただけます。
※詳しくは飯田市歴史研究所Webサイトをご覧ください。
参加申込はこちら▶

地域史講座 開催のお知らせ

江戸時代の大平街道を行き交うモノと人
―襖裏貼り文書の世界―


大平街道を運ばれた鰤の送り状
大平紙屋文書

●開催日　2026年12月12日(土)
●時　間　14：00～15：45
●会　場　羽場公民館 大会議室
●報告者　羽田真也（歴史研究所研究員）
●受講料　無料
申込期間：11月4日(水)～12月8日(火)

※Webフォーム、または歴史研究所まで電話・FAX・メールでお申し込みください。
※Webフォームでのお申し込みは11月から受付開始となります。
※オンライン受講はありません。
※詳しくは飯田市歴史研究所Webサイトをご覧ください。

伊那谷の飯田と木曽谷の妻籠を結ぶ大平街道は、18世紀半ばに大平の開発と同時に改修が行われ、その後、人やモノの往来が盛んになったといわれています。しかし、その具体的な様子は十分に明らかにされていません。今回の講座では、大平で旅籠や問屋を営んだ家に襖の裏貼りとして残った荷物の送り状を読み解きながら、19世紀の大平街道における物流のありようを探ります。

※第23回飯田市地域史研究集会の報告は12月号に掲載します。

飯田歴研賞2026―受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田下伊那の地域史研究に関するすぐれた作品に対し、飯田歴研賞をお贈りしています。2026年度は3作品が受賞され、９月12・13日に開催された地域史研究集会において授賞式を行いました。受賞者の皆様からのコメントを紹介します。

◆◆◆ 著作賞 ◆◆◆　松澤 保さん

『《歴史探訪》榑木運材にかかわった信州代官の動向
阿智村の宮崎三家と市岡氏の足跡を訪ねて』（南信州新聞社出版局、2026年1月）



この度は思いがけない評価をいただき大変ありがたく存じます。忘れられない嬉しい思い出があります。

> 冬がかけ足でやって参りました。本日飯田美博より「伊那」お送り頂き嬉しく嬉しく読ませて頂きました。理右衛門の醒ヶ井存在の事は初めて知りました。不本意な遠島とばかり思っていました。ありがとうございます。うれしいです。　市岡
>
> 暖かい師走でありがたい日々です。私も以前浄久寺の墓所にお参りいたしました。可児市の千村、八丈島と行くには行ったけれどそれだけでお恥ずかしい限りです。重罪人でなかっただけでも涙が出るほど嬉しいです。　市岡

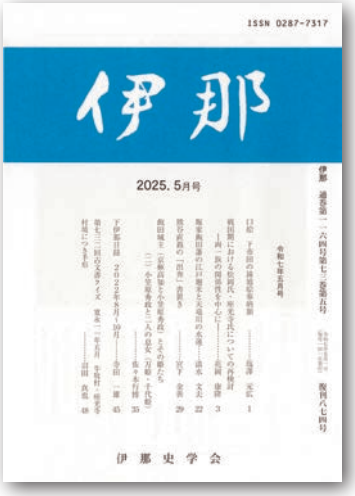
『伊那』2013年10月号「代官市岡理右衛門清次の実像」が出来上がったとき、妻が飯田市美術博物館の図録『江戸時代の好奇心』を示して言うには、この特別展の資料の寄託者が末裔だからこの『伊那』をすぐに送るように「今なら間に合う」と。やがて届いたのが前記の便りです。お会いすることもなく便りは3通で終わりましたが、間に合ったのです。

ものを書くなどと思いもよらない私に「書きなんよ」と励まし、ご指導をいただいた先生方に感謝のほかありません。そして学んだことは、過去の人々の思い、またそれを伝える活動をされている方々への共感と敬意でした。

「未来の市民のために」もと謳う飯田市歴史研究所の活動はまことに大切なことに思われます。益々のご発展をお祈り申し上げます。

◆◆◆ 奨励賞 ◆◆◆　清水 文夫さん

「普門院創建と宝憧寺・大龍寺私見」（『伊那』第71巻第6号、2023年6月）
「行倒れの旅人への対応―元禄5年「飯田御用覚書」より―」（『伊那』第72巻第7号、2024年7月）
「堀家飯田藩の江戸廻米と天竜川の水運」（『伊那』第73巻第5号、2025年5月）



この度、飯田歴研賞（奨励賞）に選出いただき、大変ありがとうございます。古文書の学習をはじめてから10年くらいになります。当初はくずし字を読むことで、なんとなくわかったつもりになっていたのですが、歴史研究所の「近世史ゼミ」を受講することで、語句の意味を調べて、現代語訳をしてていねいに文書の内容を把握することが大切なことを学びました。

また、疑問に思ったことをいろいろ調べていくことで、当時の社会の状況等について知ることもでき、楽しく「近世史ゼミ」で勉強させていただき感謝しています。

「飯田御用覚書」もまだその一部を読んだだけです。これからも古文書学習を続けたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくご指導をお願いします。

◆◆◆ 奨励賞 ◆◆◆　南信州文化財の会

『わがムラの石造文化財』 1～3（南信州新聞社出版局、2016年2月・2020年7月・2025年5月）



この度は、栄えある飯田歴研賞（奨励賞）をいただき、誠にありがとうございます。

本会は、南信州の歴史・民俗・地理等、諸般の事項を調査研究し、価値あるものの保護保全や啓発を目的として活動している会です。会員は100人程で、今年で創立60有余年を迎えます。

平成22年から令和5年までの14年間、郡内各市町村の石造文化財（馬頭観音・庚申塔・記念碑・道標・供養塔等）を研究調査し、結果を地元紙に発表してきました。その連載を再構成して編集したのが『わがムラの石造文化財』1・2・3の3冊です。多数会員による、多年にわたる研究集録とも言えます。

この受賞を機に、地域文化の発展に一層寄与してまいりたいと思います。今後ともよろしくご指導とご支援をお願い申し上げます。（会長　鎌倉貞男）

ミニリレーエッセイ㊺

蚕種業に生きた人々の歴史

田中 雅孝（歴史研究所調査研究員）



鼎下山の西友鼎店の敷地には、かつては蚕種製造組合・大龍社（たいりゅうしゃ）の本社がありました。写真は昭和20年代の大龍社従業員の記念写真です。蚕種製造とは種繭の蛹から成虫となった雌雄の蛾を交尾させて産卵させることです。大龍社は1937（昭和12）年に下伊那地方の蚕種農家の協同組合として設立されました。組合員の蚕種農家は「分場」とよばれ、蚕を飼育して原料となる種繭を本社に提供し、本社は種繭から蚕種製造を行いました。

大龍社の蚕種製造は1998（平成10）年まで維持されました。当社は1960年代の全盛期には山梨県、群馬県にも出張所を設け、販売額では蚕種製造を兼営した製糸大企業である片倉、郡是、鐘紡に次いで全国4位となり、蚕種製造の単独企業としては全国1位でした。大龍社の発展の条件は、生糸製造組合の天龍社と一体となって、農協組合員である養蚕農家に繭を提供するという安定した経営基盤を確保していたことがあげられます。

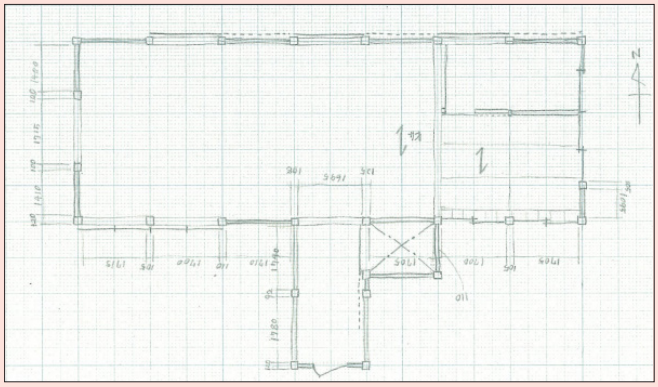
大龍社は経営史料の保存状態が良く、歴史研究所では2022年から史料保存作業を行いました。史料点数は1900点、125箱に及びました。この史料群には設立時から現在までの経営財務や役員会議録等が含まれており、90年間に及ぶ経営の長期的推移を把握することができます。大龍社では、1972（昭和47）年に社史を刊行しましたが、現在は、新たな社史『蚕種業に生きた人々の歴史』を今年度中に刊行すべく、編纂事業をすすめています。

職場体験

を受け入れました



7月9・10日に飯田OIDE長姫高校商業科のインターンシップ（職業体験学習）で、2年生2名が研究部の仕事を体験しました。体験内容は、登録を完了した飯田市の非現用文書を研究所から押洞・愛宕書庫への搬入作業、歴史的建物の現地調査、昭和期の写真ネガフィルムをスキャナーによりデジタル資料へと変換する作業、史料現状記録調査への参加でした。その中で建物調査は、研究所隣家のお宅に残る、戦前期に養蚕小屋として使われ、戦後期に半生菓子の工場に転用し、現在は農具小屋となっている建物を調べました。柱の間の長さを計り、方眼紙に見取図を描きました。養蚕や半生菓子工場の痕跡を見つけながらの調査で、地域産業の歴史を知る体験にもなりました。



▲写真は建物調査の様子とフリーハンドで作成した見取図

定例研究会　【開催日時】 **10月24日（土）** 14：00 ～ 16：00　（会場：歴史研究所 研修室）

「1930年代における飯田下伊那の山林開発－満州への木材輸出をめぐって－」

報告者：伊藤 悠（歴史研究所研究員）　※お申し込みは歴史研究所まで

受講生募集中!!

歴研ゼミ＆ワークショップ 10月・11月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ

「飯田御用覚書」を読む

10月14日･28日/11月11日･25日

第2･4水曜日 18:30 ～ 20:30
担当：羽田真也（研究員）

建築史ゼミ

大火後の飯田市街の空間を調べる

10月16日／ 11月20日

第3金曜日 18:30 ～ 20:30
担当：岩田会津（研究員）

地域史ゼミ

大正期 LYL 事件の刑事記録を読む

10月8日／ 11月12日

第2木曜日 13:30 ～ 15:30
担当：伊藤 悠（研究員）

思想史ワークショップ

日記から読み解く個人理解

10月7日･21日/11月4日･18日

第1･3水曜日 16:00 ～ 18:00
市民の皆さんが自主的に学び合う場

満洲移民研究ゼミ

文書・記憶・個人の記録から考える

第177回 10月3日 / 第178回 11月7日

第1土曜日 10:00 ～ 11:40
担当：本島和人（調査研究員）

近現代史ゼミ

昭和9年 胡桃澤盛日記を読む

10月24日／ 11月28日

第4土曜日 10:00 ～ 11:40
担当：田中雅孝（調査研究員）

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670
開所時間：午前９時～午後５時　　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信をご希望の方は、E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp まで